

訂 正

結核第81巻第12号721-730頁, 2006

伊藤邦彦：欧米における結核患者の入退院基準および本邦との比較

上記の論文の中に下記の誤りがありましたので、お詫びして訂正致します。

編集委員長 長尾啓一

725頁 右 29行目～30行目 正：日本では結核病学会¹³⁾は「『感染性が消失したと考えられる』場合とは、薬剤感受性を考慮した適切な治療が行われ、かつ喀痰抗酸菌検査で塗抹陰性化、または菌量の減少と自覚症状（発熱，咳）のほぼ消失，または喀痰培養陰性化，またはその他の検査所見の改善，を目安とした総合的な評価による」としており，

誤：日本では結核病学会¹³⁾は2週間で感染性が消失すると述べており，

注：今回の訂正については委員会報告の原文を引用し挿入したものであり，原文の英訳については差し控えた。